

# ZENCOLO

## ゼンコロ

一九九二年四月十七日第三種郵便物認可(毎月三回七日発行)



### 私たちの誓い

- |  |  |
|--|--|
| 1. 私たちは、試されたことのない道を自分たちの手でできひらく開拓者の心もち続けます。<br>(開拓者の心)       | 力を育てる努力を続けます。<br>(可能性の追求)  |
| 2. 私たちは、さまざまな困難を乗り越え、働くことをつうじて積極的に社会に貢献することをめざします。<br>(働く喜び) | 4. 私たちは、お互いに協力し、励まし合い、かわることのない連帯であわせを築きます。<br>(連帯と協力)                |
| 3. 私たちは、ひとりひとりの多様な可能性を信じて、新しい能                               | 5. 私たちは、心を合わせて、すべての人がもっとも人間らしく生きることのできる平和で豊かな社会の実現をめざします。<br>(豊かな社会) |

### 「調一興さんを偲ぶ会」

(2005年6月29日 中野サンプラザ)

**重度障害者の職域の拡大を！ 重度障害者の完全就労と雇用を！ 障害者の社会参加を！(ゼンコロメインテーマ)**

・青森県コロニー協会・青森市017(728)5621・山形県コロニー協会・山形市0236(41)1136・長野若槻園・長野市026(296)1415・東京コロニー・中野区03(3952)6166・東京アフターケア協会・清瀬市0424(91)1236・あかつきコロニー・武蔵村山市0425(60)7840・京都梅花園・城陽市0774(52)1362・山口県コロニー協会・防府市0835(32)0069・福岡コロニー・粕屋郡092(963)2781・佐賀春光園・三養基郡0942(94)2144・熊本県コロニー協会・熊本市096(353)1291・沖縄コロニー・浦添市098(877)3344  
ゼンコロホームページ <http://www.tocolo.or.jp/zencolo>

**新「アジア太平洋障害者の十年」(2003～2012)を推進しよう**

# 調名誉会長に想う

社団法人ゼンコロ

会長 勝又和夫

## 1. はじめに

4月15日の深夜、寝つく間際の私の携帯電話に伝言を入れている音で起き出し、その伝言を聞いて調名誉会長の死を知りました。3月30日に入院先の病院を訪ね、「まもなく退院だ」と言っていたことやその元気な姿を見ていただけに驚きもひとしおのものがありませんでした。

1971(昭和46)年に「車椅子で自立するには東京しかない」との思いから、病院からリハビリ施設、そして東京での第一歩の場としてその年に開設したばかりのコロニー印刷所の施設利用のために入所し、初めて会ったのが調所長でした。

「東京で自分にできることが見つかったら直ぐにでも施設を退所したい」と告げてから34年。当時の東京コロニーは中野に2つの施設があるだけで、総勢でも80名弱の規模だったと記憶しています。そ

の後の規模の拡大は凄まじく、5年を経ずして現在の青葉ワークセンターを除く事業の基礎と規模となり、その津波のような大波の中で私は今に押し流されてきた気がしています。

## 2. 私にとっての調さん

私と調さんの34年間で大きく分けると、「調所長」、「調常務理事」、「調理事長・会長」、「調名誉会長」の4つでした。所長としての調さんに出会った時の第一印象は「障害があっても特別に頑張らなくてもいいし、そのまま“人”として受け入れてくれるんだ」というものでした。社会の矛盾に対する激しく鋭い憤りとそれを覆すための力の

凄さ、人の自由な心を大切に、どんな人でも丸ごと飲み込んでしまう懐の深さ、調さんが居るだけで楽しく豊かな気持ちになれたものでした。

常務理事としての調さんは拡大した内部への対応と特に社会的な活動における全国社会就労センター協議会や日本障害者協議会の立ち上げ等、幅の広さとその行動力に驚かされながらも、私自身は自らに与えられた課題に四苦八苦していた時期でもありました。理事長・会長になられてからは

内外に対しはむしろ御意見番的に自らを抑えていた感が強く記憶に残っており、名誉会長になられてからは重要な局面でのアドバイスはあったとしても、実に辛抱強く「委ねたからには口は出さない」に徹していたとの思いのするものでした。



墓前にて勝又会長

## 3. ゼンコロの中で

ゼンコロの20周年誌に「ゼンコロのサムライたち」として、小川孟さんが一文を寄せられています。夜を徹しての議論やひとりひとりが古武士然とした風格がありながらも、ひとつにまとまった力の発揮は驚くばかりのものだと評していました。これを率いていたのが調さんであり、仲間の施設の窮状に東奔西走した話や、結核に患った人たちを「内部障害」と認めさせるために専門家(結核専門の内科医)にテープレコーダー持参で聞き取り調査をし、それをもとに厚生省の人たちに認めさせた話し、さらには一般企業では雇ってもらえない障害者に対する一定の配慮のもとでの雇用(福祉工場制度)の創設の話など、そのリーダーシップの下に多

くの同志がおり、そして今の私たちの基礎があると思われています。

#### 4. 時代の寵児

歴史上に名を残す人はたくさんいますが、福祉分野における「調一興」という名は必ずや後世に伝わっていくものと確信しています。わが国の戦後の高度経済成長期にあっても、障害者福祉は常に後追いでしかなかったものを、調さんたちの力によって1971(昭和56)年の国際障害者年を契機に、ようやくにして薄日が射し込むものにしたことは、誰もが知る事実だと思います。制度の不足や不備を実践を通じて実証し、その結果を施策に反映させ、常にその時代の

先頭を走る力と器を持っていたと思います。こうした力によってわが国の福祉水準を大きく前進させたことに間違いありません。しかし、現在に至ってもOECD(経済協力開発機構)の中で、GDP(国内総生産高)に占める障害者予算比率は

0.66%(2001年)とアメリカの半分で、ドイツの5分の1にしかすぎない事実を見ると、いかに当時の状況改善に多くの力を要したかが想像できるものと思いますし、そんな中でも障害基礎年金の創設等多くの功績を残しています。

#### 5. 私たちに託されたもの

この原稿を書いている今、国会においては「障害者自立支援法案」が審議されています。戦後60年間に築き上げられてきた障害者福祉を一旦白紙に戻し、限られた財源の中で再構築する、その基本は「自助」であって福祉サービスはその利用量に応じた負担を原則にするという、調さんが現役であつたら何と言うだろうと思わされる内容を含

んだものになっています。

6月のゼンコロ総会で、調さんがよく口にしていた「我々の事業の出発点においては、何の公的な補助もなかったが、それがむしろ自分たちの事業の基礎を確かなものにし、自らを強くした」という話しを敢えてさせていただきました。

現下の構造改革における社会福祉法人に対する有力な意見として「イコールフィッティングの観点からは税の負担もなく、公費により施設整備がなされ、補助金を得ている存在は、公正な競争の妨げになる」とまで言われています。GDP比0.66%でしかない障害者福祉施策の現状を考えた場合、とても「はい、そうですか」とは言えない心境で

すし、調さんからは「折角改善してきたのに、何を言われているのだ」と怒られそうな気がします。しかし、一方に現実があります。時代の歯車の回転の中で、外に向かっての努力はするとしても、自らの覚悟をどこに置くかはあります。それで言うならば私たちの原点は

調さんたちが事業を始めた時にあり、そこが覚悟の原点だとすれば、新たな力がまだまだ湧いてくると思えますし、共に頑張りたいとの思いでの総会での発言でした。

ゼンコロの往時の「サムライたち」の姿を知る私たちは、調名誉会長の死という、とても悲しい出来事の中で、改めて「拓いてきた道」を守り、未来へつなげて行って欲しいといわれた思いがしています。

5月30日にゼンコロの皆さんと調さんの墓に詣でてきました。小高い頂上付近にその墓はひっそりとありました。

「過ぎてみれば、人生は一瞬であった。一興」 私たちもそう言えるまで一生懸命頑張ります。



ありし日の調一興名誉会長

故調一興さんの御霊に謹んで哀悼の誠をささげます。

友人代表  
社会福祉法人 沖縄コロニー  
名誉理事長 山城永盛

「やあー元気かい。四月になったら暖かい沖縄で、のんびりしたいから、また、よろしく頼むよ。」年も明けた一月早々、いつものように弾んだ元気な声。その電話が、貴方との会話の最後になるうとは。調さん、今日まで貴方は、一度でも約束を破るようなことはありませんでした。しかし、今回はとうとう、その約束を果たすことができませんでした。人一倍、沖縄を愛し、愛しつづけた貴方の無念さを思い、残念の極みでなりません。なぜ、そんなに急いで一言のことわりもなく、旅立たれたのか。

調さん。貴方はゼンコロを始め数多くの団体を拠点に、我が国の立ち遅れていた結核回復者を始め、「障害者自立・支援事業」等のあらゆる分野・領域において、終生、情熱を燃やしつづけられ、類い稀なる輝かしいご功績を残されました。その足跡は、一朝、一夕で語れるものではありません。現役を退かれた後も、多くの人々が敬慕の念を抱かれています。その証であります。



参列者のみなさん

ありましたね。「やあー山城さん？」駅のプラットホームのほぼ中央にたっていた貴方の初めて聞く声。一見して瘦身の面長の顔に、笑みを浮かべて遠来の客を出迎えてくれましたね。結核回復者更生事業推進大会と銘打った「第一回全国コロニー大会」に招待を受け、出席するためでありました。その時、私は三十四歳。米国施政下の異民族支配の中で、高等弁務官のパスポートを持って初めて、祖国日本の土を踏んだのでありました。

調さん。貴方との初めての出会いを忘れもしません、昭和36年10月22日(今から44年前)、東京駅であ

お互いに初めての出会いという衝(てらい)はありませんでした。その時の第一印象がいまだに焼きついて離れない、強烈な出会いでありました。それを起点に、貴方のご指導のもと、ゼンコロのサムライたちとの永い交友が始まったのです。理論好きの、論客の多いゼンコロのサムライたちを、よくも柔軟かつ、強引に手綱を引き寄せていたその手腕、力量は、貴方でなければできないトップリーダーとしての、面目躍如たるものがありました。また、貴方は、障害者運動のウネリを、いち早く海外に向けられ、昭和五十年の初めから、オーストラリア、北欧、米国等の先進国で、ゼンコロの実践に生かされたその研修の先見性は、当時の福祉現場に先鞭をつけるものでありました。

調さん、貴方の、恵まれない境遇の人々への想い、懐の深さ、

包容力。凡人では到底真似のできないその精神(こころ)は、「人間愛」に裏打ちされたものといえまじょうか。また、時には権力に屈せず、一貫して筋をとおす頑固なまでの意志。そのことは、多くの人々の共感を呼び起こしました。さらには、仲間の墓参の際に流した友情の涙、肺活量の乏しい中でのカラオケの特技。最近では旧交を温める会での老人力、昨年6月、薫温泉で2人だけの最後の語り、などなど。貴方との50年近い交友の中で、かけがえのない人生の生きざまを教指導していただきました。

調さん、貴方が終生、愛し続けた沖縄でのつきることのないいっばいの思い出、ほんとにありがとう。もう、お別れの時間が参りました。先に旅立たれましたヨシエ夫人はじめ、星一男、上村喜代人、木下昭二、坂本高俊、矢口良作、井澤辰次、古川保、ゼンコロのサムライたちと、もう、四方山話に花を咲かせているであろうと、思われます。

最後になりましたが、貴方が希求しておりました「世界平和」が一日も早く訪れますよう、ご祈念申し上げます。調さん、永い間ほんとはご苦勞さんでした。どうか、安らかに眠り下さい。さようなら。



遺影

弔辞を読む山城永盛氏

調さん、有り難うございました。

### 東京コロニー 元従業員 柴田良平

調一興さんは、私の人生にとって掛けがえのない存在でした。私のコロニーとの出会いは、ハンセン病療養所退所後7年目のことでした。会社の倒産と失業。厳しいフリーター稼業。病気への差別や偏見を避けての、脱獄囚のような暮らし。そうした辛酸をなめ尽くしてコロニーにたどり着いたのです。調さんは、ハンセン病という社会的に差別と偏見の極限に置かれた病気の回復者に、「自立」と「勇気」を培う場を与えてくださいました。私はそこで、真の社会的自立である職業的自立と、差別や偏見に立ち向かう勇気を培いました。その支えになってくれたのは、もちろん職場の仲間でした。

私はこうして「社会的正常化」へ歩みだしました。その後、コロニーで培った感性と勇気をもって、国を相手



思い出の写真(「偲ぶ会」ロビーにて)

どって「ハンセン病違憲国家賠償訴訟」の原告として、勝利に貢献できました。調さんはこの訴訟が始まるいち早く、法人本部の人達とともに、「支援の会」に参加し、自ら裁判所にハンセン病患者や回復者の、社会的に置かれてきた困難な実情を具体的に文書で立証し、その不当性を告発してくださいました。

かつてのゼンコロ綱領の文言に「真に人間らしく生きていく機会を奪われている。この事実には限りなく義憤を感じる」という言葉があります。調さんはその言葉を体を張って実行して下さったのです。調さんの文書に「当法人は、障害者は対象者でなく仲間である」「しぶとく生きる」という字句を何度も見てきましたが、その言葉は、綱領に原点があったのではないのでしょうか。

調さん有り難うございました。安らかに、ヨシエさんと永久の眠りについてください。

(『68歳の春』著者 発行：社団法人ゼンコロ)

調名誉会長のお墓にお参りました。

### ゼンコロ事務局 渡辺忠幸

4月15日に逝去されてから1ヵ月半が経った5月30日、勝又会長をはじめ会員法人の主だった方々とともに、初夏を思わせる青空を背にして山口・宇部空港に降り立ちました。

東京・大泉にある、調さんが入院していた病院へ見舞いに伺いましたのが亡くなる1週間前の4月8日。その日のゼンコロ三役会議終了後に、金城常務理事、武者理事、比嘉哲さんと西武池袋線に乗って出掛けました。治療のことでだいぶ弱音を吐かれていましたが、「元気になって、また波照間へ一緒に行こうよ!」との金城さんの励ましに調さんは応えていたのに…。病院の庭先の桜が満開だったことが鮮やかによみがえってきます。

山口県コロニー協会に手配していただいたワゴンに乗り込み、宇部の飛行場を後にして丘陵を切り開いた公営墓地にあるお墓に向かいました。見晴らしの良い斜面の一角に、調さんの「お墓」がありました。正確には「調一興/ヨシエ 夫婦之碑」となっています。11年前の1995年3月25日に奥さんのヨシエさんが亡くなられ、その1年後に建立された「夫婦之碑」に、調さんも仲良く入ったこととなります。ヨシエさんもさぞかし首を長くして待っていたことでしょう。不肖私の結婚式も、媒酌人として調ご夫妻にお願いした、数多いカップルの1組でもありました。お世話になったこと、心からお礼を申し上げ、合掌してきました。

お墓の碑に「過ぎてみれば、人生は一瞬であった。」と記されていました。78年の間に第二次世界大戦、敗戦直後の混乱、結核発症、コロニー運動、事業拡大、海外の障害者運動の取組み、国内障害者運動の大同団結に向けての取組みなど、障害種別、制度、地域、国を超えて障害者のリハビリテーション(人間復権)とノーマライゼーション(当たり前の生活)に、先頭に立ってまい進してきた78年間は決して「一瞬」とは言えないにもかかわらず、亡くなる10年前、68歳のときにそう言わしめた調さんの胸のうちは、一体どういう思いが去来していたのでしょ



山口・宇部市にある墓誌

うか。私の父は5年前に他界しましたが、亡くなった直後しばらく感じていた心の奥底の喪失感を、改めて味わっています。

# 5.12 「障害者自立支援法」

昨年1月以来、論議を重ねてきた障害保健福祉施策の改革も、昨秋、「今後の障害保健福祉施策について(改革のグランドデザイン)」として骨格が明らかになり、本年2月10日には「障害者自立支援法案」となって、国会に上程されました。本法案は応益負担や、精神障害者通院医療費負担などの利用者負担増が懸念されています。こうした一方で、政令、省令などの細部にわたる規定が着々と準備されています。こうした局面を迎え本法案によって障害のある人々の生活とその周りの人々がどのような影響を受けるかを検証し、検討を加え、少なくとも現在より諸サービスが低下することがないように、障害者自身の声を結集し、障害者施策の真の改革を広く社会に訴えよう(フォーラム呼び掛け文一部引用)として、5月12日に日比谷公会堂と日比谷野外音楽堂の2ヶ所で合計6,600名が参集しました。うちゼンコロでは青森から沖縄まで400名を超える仲間が集まり、法案の課題について共に強く訴えました。以下は会員法人から出されました、フォーラムに参加しての報告集です。



河端JD代表のあいさつ(日比谷公会堂)



日比谷公会堂



「聞いて下さい、私たちの声」  
(沖縄コロニー総勢20名、日比谷野外音楽堂で発表)

## 沖縄コロニー

全国からお集まりのみなさん、こんにちは。  
私は沖縄コロニーの佐久川と申します。

障害者の実情を無視し、障害者の声を聞くことなく進められていく法案の審議に、「ノー」という声を何とか届けた。そういう思いで社団法人ゼンコロの一員として、沖縄コロニーから20名でこのフォーラムに参加しております。

沖縄コロニーの4つの授産施設で働く230名の障害のある仲間達は、いきなり、来年1月から「働く」ことに利用料を払え、というこの法案に、大なる疑問と激しい憤りを覚えています。

たとえば、障害基礎年金2級を受給している当施設の入所利用者の場合。

食費、光熱水費の実費負担と利用料の1割負担、補足給付、減免措置等を考慮して試算してみると、工賃が3万9千円を越えない限り、手元に残るのは生活費と工賃控除分を合わせた2万8千円だけです。工賃は1万円でも3万円でも同じなのです。工賃が3万9千円を超えてはじめて、その分だけ手元に残るのが増えていく計算になるのです。

これでは働く意欲など湧いてきません。今日よりも明日、今日よりも来月、今年よりも来年はがんばろう、という気持ちなどもてるはずありません。ましてや、2万8千円で1人の社会人として、人並の生活が維持できるとも思えません。こんな法案が国会で可決されるなど、とても信じられない思いです。

それとも、一般就職ができないのなら授産施設等で働くことなどせず、家でじっとしているとでも云うのでしょうか。失業率が8.6パーセントもある沖縄の厳しい雇用状況を考えると暗澹たる思いにかられます。

福祉工場や授産施設、作業所等で働く多くの仲間達は、「自分で稼いだお金で充実した日々を過ごしたい」「将来のために貯金もしたい」「結婚もしたい」「働く姿を子供達に見せたい」「年老いた両親の支えになりたい」そんなごくあたり前の願いをもっています。そんなささやかな願いがかなえられる障害者自立支援法になっているのでしょうか。



# を考えるみんなのフォーラム

懸命に働いて手にする工賃がそのまま利用料として徴収されるような法律は障害者の自立を妨げるだけです。障害があっても、この世に生を受けた同世代の人間として、等しく「働く権利」が保障され、生きる喜び、働く喜びを享受できる内容であってこそ障害者自立支援法と呼べるのです。

私たち沖縄コロニーを含む12法人で構成し、設立以来43年間、一貫して障害者の自立と所得保障を求めて「働く場」の確保と確立に取り組んできたゼンコロも、所得保障なき応益負担に反対し、「谷間の障害者」を生まない事を前提に、第45回総会で緊急要望事項を採択しました。今日も各地から500名の仲間達がこのフォーラムに参集しています。

国会で法案を審議しているみなさん、どうか障害者の切なる願いを、障害者の声を聞いて下さい。しっかりと受け止めて下さい。  
(沖縄コロニー 佐久川清美)

## 熊本県コロニー協会

応益負担はどうなるの？

私は福祉工場で働く障害者です。今回の「5月12日 障害者自立支援法を考えるみんなのフォーラム」に参加して、いかに今回の法案が乱暴で、戦後積み重ねてきたわが国の障害者福祉が大きく転換するものになっているのかを痛感しました。

特に問題なのは応益負担制度です。福祉工場に働く障害者は所得税を払い、社会保険料を支払っています。つまり雇用契約に基づく勤労者としての義務を果たしている上に、福祉工場に働くということで、さらに「利用料」を支払え、というのですから納得できるはずがありません。

また、支援費制度の総括もないまま、なぜ、こんなに早く法案化されなければならないのでしょうか。あまりにも乱暴です。厚労省は「不備は省令や通達で補い、時期をみて見直す」としていますが、一旦法制化されてしまえば容易に動かないと思います。私たちは知っています。その前に当事者である私たちが反対の意志を強くアピールする行動が必要だと考えます。  
(熊本福祉工場 川越康勝)

## 福岡コロニー

5・12「障害者自立支援法」を考えるみんなのフォーラム参加報告

5・12「障害者自立支援法」を考えるみんなのフォーラムに、福岡コロニーより4名が参加した。支援費に移行して2年。「障害保健福祉施策について(改革のグランドデザイン案)」が明らかにされ、新たな支援体制が打ち出されたが、「国の逼迫した財政難だけが前面に押し出された法案」「我々障害当事者の声や意見・家族の意見がほとんど反映されていない」。障害当事者と家族の思いが反映され、就労を含む諸サービスの幅が広がり、社会資源の整備を十分に進めなければ、名前だけの「自立」「支援」になってしまいか

ねない。根源的な所得保障問題を先送りする形での応能負担から応益負担への移行問題は、あまりにも早急すぎる感はやむを得ない。

参加した一員としては、「障害者自立支援法」が、名前だけの「支援」にならないように福岡コロニー内部でもアピールを行わなければならないと痛感している。早急に具体的な取り組みを検討し、全国の仲間とともに声を挙げていかなければならないと考える。

(新・アジア太平洋障害者の十年推進委員会委員長

麻生辰廣)

## 山口県コロニー協会

「障害者自立支援法」を考えるみんなのフォーラムに参加して

「どうなる どうすべき わたしたちの明日を」と題して日比谷公会堂・音楽堂を会場に「障害者自立支援法」を考えるみんなのフォーラムが全国から6,600人もの関係者(障害者や家族、施設関係者等)の参加で開催され、山口コロニーからは3施設5名が参加しました。

5月12日の日比谷は薄曇、風が冷たく、公園のばらが見事に咲き誇り、集まった人々を応援してくれているかのようでした。

この法案の基本的な考え方が「グランドデザイン案」として示されたのが昨年10月、2月には法案が提出されました。この法案は、身体、知的、精神の障害者に対する福祉サービスの「一元化」をきっかけ、サービスの利用方法や負担のあり方を抜本的に変更するもので、問題を多く含んでいます。まずサービス利用者に1割負担導入を掲げており、所得に応じた「応能負担」である現行の支援費制度に比べて大幅な負担増となっています。精神通院医療等に対する公費負担医療制度(現在は更生医療・育成医療は応能負担、精神通院医療5%負担)についても1割の応益負担が導入されます。また、障害程度の区分など法案の重要な部分が国会での審議が必要のない政省令に委ねられているのです。



山口県コロニー協会のみなさん 佐賀春光園のみなさん

この日日比谷は「当事者を抜きの審議するな!」「自立支援法は自殺支援法だ!」「通院せずに死ねというにか!」「廃案へ向けハリストで闘おう!」「サービスを受けられなくなる!」など障害者当事者や関係者の悲痛な叫びが飛び交い、そして会場は熱い議論で埋め尽くされました。

フォーラムに参加して、当事者運動の意義を痛感し、すべての障害が網羅された先進的な法の誕生と地道な活動が実を結ぶことを願ってやみません。

(山口コロニー授産所 支援員 河嶋夏子)

## 東京アフターケア協会

『5.12みんなのフォーラム』で・・・

この5月で、就職して満1年を迎える障害者福祉を勉強中の新人職員です。どうぞよろしくおねがいします。

今回、私は日比谷野外音楽堂で行われた「5.12みんなのフォーラム」に参加させていただきました。当日は時折肌寒く感じる天候でしたが全国各地から集まった大勢の参加者たちで会場はいっぱいでした。

開会式が始まり野外音楽堂のステージは歌あり、劇ありと楽しめる内容のものもあり見ている参加者の表情がいきいきと輝いて見えました。また、施設で作ってきたのでしょうか、揃いのうちわに手作りプレート、カラー帽子など持ち込んでの参加団体もあり、この日のフォーラム(障害者自立支援法)に対する並々ならぬ関心の高さを感じました。

進行中は参加者たちが頷いたり、首を振ったり、涙を拭うしぐさ、共感する声または批判のブーイングの声をあげるなどの場面が多くあり、障害者とその家族や関係者たちが抱えているさまざまな思いが伝わってきました。

地域や障害の特性は違っていても、思うこと、望むことは同じなのだと思います。そして、

「わたしたちの声」では一人ひとりがほんとに真剣に訴えていました。

閉会が近づくにつれ、参加者たちの熱気は高まって・・・フォーラムも終盤となり、みんなの思いを込めて「手のひらを太陽に」を裏方のスタッフの人たちもステージに出てきて、会場全体がひとつになった大合唱の凄さには感動しました。

障害者福祉の仕事に携わって日が浅い私ですが、今回のこのフォーラムですばらしい体験ができたので、参加できてほんとはよかったです。

(東京アフターケア協会 本橋・坂巻)

## あかつきコロニー

障害者自立支援法を考えるみんなのフォーラムに参加して

5月12日、日比谷公会堂・野外音楽堂に全国からたくさんの障害者や家族、関係者が集まり「障害者自立支援法を考えるみんなのフォーラム」を開催し、集まった人達から切実な訴えが数多く聞こえてきました。「作業所など家族の負担が大きすぎて通えなくなる」「病院などの負担が増え十分に通えない」など、色々な団体から沢山の意見が出た事は、この法律が「いかに問題の多い内容で、私たち障害者に係わる重要でかつ自立支援という言葉だけの中身のともなわれない」法案を受け入れることは出来ない。そもそも福祉と

は障害者や老人など人権と生命を守るために国家が責任をもって財源を確保し、誰もが安心して生活出来る様にする事であって“予算を切り詰める為に福祉を削ってはならない”。それは弱者にたいして「国が早く死ね」と言っているのと同じだ。そんな事をして誰がこの国で安心できるのか。そんな日本だから個人消費も伸びないのではないかと思う。

法律の施行を急ぐことなく、もう一度検討するべきであり、どうしても取ると言うのなら「所得保障」を十分にすべきではないかと私は考える。

私達、障害者及び弱者は人として生き人としてある権利を自然に普通にしたいだけなのだから。

(作業部一課 榎本光雄)



東京コロニーのみなさん

## 東京コロニー

5.12日比谷フォーラムに参加して

5.12日比谷フォーラムの朝、私は要員として日比谷公会堂の下手控え室にいました。窓から見下ろす日比谷公園には続々と集まる人々が見え、一般入場が開始されると間もなく公会堂は満員になっていました。開会式、シンポジウムが進行され拍手や歓声が響くのをステージ裏で聞きながら、改めて障害者自立支援法案への関心の高さを実感しました。

日頃、この法案によって生活がどのように変わるのかという不安の声を聞きます。いつまでここで働いていられるか、働かずに家にじっとしていなくてはならないか、今まで通りのサービスが利用できるか、通院医療費の負担が心配・・・と話つきません。またご家族からもうちの子は今後どの施設を利用すればよいかと相談されることもありました。通所化によって地域生活を始めて良かったけれど、生活の余裕はないという人に1割の自己負担は大きい、また自分の家族にかかる負担を心配する声もありました。



政党シンポジウム(日比谷公会堂)



アピールにある「自分の人生や生活は自分で決めたい」とは、健常者、障害者に関わらず人として当たり前のことだと思います。当日参加した6600人の声が国会に届くように願うと同時に私達には何が出来るかを、また法案を通じて自立生活や地域生活について考える良い機会となった1日でした。(中野工場 ケースワーカー 松本直子)

## 長野若槻園

障害者自立支援法.....そして願い

「郵政民営化法案」の蔭で「障害者自立支援法」なる法案が提出されて審議が始まった。これを受けて、全国から日比谷に六千人を超える人々が集(つど)いました。

この法案は「施設から地域へ」というスローガンとは全く逆の方向を向いた法案であり、「障害者がタックスペイヤーとなることが理想」ということに逆行する法案であると、私はとらえております。

総じて高くない障害者の収入から「利用したサービスの量に応じて障害者に1割の負担を求める」というのがこの法案の「最も大きな柱」なのです。

新聞によりますと、障害者に対する現金給付のGDP比もアメリカと比べても、かなり低いということです。税率を上げる時、福祉目的にするとした消費税の1%分を当てれば、自己負担(1割負担)せずすむのです。このことは納税者のコンセンサスを得るまでもないと思いますが、いかがなものでしょうか。ノーマライゼーションを推進させるためには、確固とした所得保障がなければ無理なことは、子どもが考えても分かるかと思えます。

「障害者個人は存在しない。障害者は彼をとりまく彼の環境と共に存在する」という言葉がありますが、経済的な面も含めた「環境」が変わりさえすれば、障害者という存在は、良い意味から、いなくなることを確信します。

国会議員の先生方に聞きたい思いです。「国会議事堂の利用料を給料(歳費)の10%分支払って下さい。」と言われたら黙って喜んで払いますか? .....と。どんなに苛酷なことか、自分の身に置き換えればお分かりいただけることなのです。ましてや、おおかたその所得はあなた方の20分の1、いや30分の1以下なのです。

障害者問題は、国連の障害者の権利宣言でも「一部の構成員をしめ出す社会は弱くて脆(もろ)い社会である」と謳(うた)われておりますが、この法案は、社会の構成員である障害者を、まさに社会からしめ出そうとしているように思えてなりません。



有識者シンポジウム(日比谷野外音楽堂)

そして「人は障害者という老人になる」のです。4本足で生まれて、2本足で生き、3本足で死にゆく存在が人間なのですし、だれもが障害者になる可能性をもっているのです。

全ての人々が、安心して病気になれる、安心して障害者にもなれる、そんな社会になることを熱望してやみません。

(長野若槻園 小林昭良)

## 山形県コロニー協会

『自立をしたい』この気持ちは、障害者も同じこと。

「障害者自立支援法」の国会審議が始まった今、この法案がこのまま成立することによって、施設を利用している方や一人暮らしで種々の公的サービスを受けている障害者等の生活がどう変わるのか、国会議員や行政の方は、ほんとうにわかっているのでしょうか...? 疑問です。

「おいしいごはんを食べる」「トイレに行く」「外出を楽しむ」などなど、これは人間の基本的な大事な部分。しかし、重度の障害者は、身体障害に限らず聴覚・視覚・精神等は、ヘルパーなど助け、公的サービスを受けなければ、そのことすらできず、生きてはいけません。誰も生き活きと生きたいものです。応益負担の導入によって、この重度の障害者ほど高額な自己負担を払わなければなりません。このことが、「自立」を支援する法案なのでしょうか?

国の財政難が理由に始まった法案。大事なものは、なにか。そんなことを思ったフォーラムでした。

(山形福祉工場生産部 加藤 誠)

## 青森県コロニー協会

私がこのフォーラムに参加して、まず私なりの結論を記したい。それは「障害者もその関係者も法案に執着せず、自分たちの道を自分たちで切り開く、という方向に歩むべきでは?」ということである。以下にこのフォーラムの議題で強く印象に残ったものを3つ挙げる。

1. 碌に議論もせずこの法案を通過させようとしていること。
2. 応益負担という問題。
3. 国の予算の半分が国債という借金で賄われているため、財源の確保が困難。

法案を作成した方々の狙いは、上の3つの指摘を受けてもさらに立派なものであったのかも知れないが、彼らの見通しは甘かったと思う。実際にこのフォーラムであれだけ批判され拒絶される現状を見れば。

しかし、私には批判や廃案で国民の理解が得られるとは思えない。であるならば、私は2つのアイデアを提案したい。1つは障害者が企業を起こし、そこで得られた利益を障害者に分配するようなシステム作り。2つ目は企業と提携し、その企業の製品を障害者がプロモーションする代わりに企業が報酬を与えるというシステム。要は一度でも世間に「障害者、やるじゃん」と思わせられたら、国民の障害者に対する視線も変わってくると思う。

最後に、この私に有意義な時間を提供してくれた青森コロニーセンターに敬意を表して、この拙文を終わりたい。

(編集係 畑山英範)

## ゼンコロ第46回総会、沖縄で開催

6月16日、17日の2日間にわたり、沖縄コロニーの全面的な協力もと沖縄・久米島で第46回総会を開催いたしました。2004年度事業報告・決算、2005年度事業計画・予算、役員改選、「障害者自立支援法案」の動向についての協議と決議文の検討など、重要な議案が審議され、採択されました。また、18日は沖縄コロニーが運営する養護老人ホーム「ありあけの里」を見学し、今後のヘルパーステーション事業について重要な示唆を受けました。以下、その内容を報告いたします。

2004(平成16)年度

## 社団法人ゼンコロ事業報告

(2004年4月1日～2005年3月31日)

### 1. はじめに

2004年10月、障害保健福祉施策の総合化、自立支援システムへの転換、制度の持続可能性の確保を改革の基本視点としたとしている「今後の障害保健福祉施策について」(改革のグランドデザイン案)が厚生労働省から突如として発表され、支援費制度の介護保険統合化問題が先送りとなった後、改革のグランドデザイン案を骨子とする「障害者自立支援法案」が今年2月、「障害者雇用促進法改正案」とともに国会へ上程された。

グランドデザイン案の内容把握と課題理解のため、11月のゼンコロ第45回総会(立川市)で厚労省の就労支援担当の課長補佐を招き、講演と質疑応答の場を持った。総会最終日には「改革のグランドデザイン案に関する意見」として、利用者負担を求めないこと等の総会決議を満場一致で採択し、総会決議文をまとめた。引き続き2月の拡大理事会では「障害者自立支援法案」の成立後を見据え、方向性の把握と施設運営における課題を検討・整理する具体的対策を提起する、理事を中心とした「制度改革対策委員会」を発足させ、企画総務委員会がその事務局機能を担うこととした。今後は全国の障害者を巻き込んだ、法案を考えるフォーラムが予定されており、ゼンコロも日本障害者協議会を通じて、理解と課題整理を積極的に進めることとしている。

印刷事業は民間企業とのタイアップによる新市場開拓へ動き出したが、参加法人が限定され、結果的には予算が達成できなかった。カラーマッチング技術の品質発表会は全法人参加の下で実施した。品質的には民間の印刷会社に負けない内容を確認でき、今後の展開を期待したい。新規事業は古紙回収・リサイクル事業を中心とした環境事業が軌道に乗り始め、予算を達成できた。

障害者福祉を取り巻く環境は、財源問題を課題とした国の制度改革のあまりにも急速な進展に危機感を募らせている。しかし、国連における障害者の権利条約制定の動きや、JDFにみられる国内障害者団体の結集の動きは、社会的にハンディを有する多くの人々にとって、着実に大きな力になっていくものと期待している。この動きをゼンコロとしても支え、共に活動できた一年であったと評価している。

### 2. 国際的動向への対応

10月開催のワーカアピリティインターナショナル(Wi)の年次総会(ニュージーランド)に、2名の代表を出し、連携した。

### 3. 国内的動向への対応

障害者施策に関わる国の動向を把握し、新しい施策の内容を注視しながら、施策策定過程において不相当と思われる部分がある場合は、主として日本障害者協議会(JD)を通して改善のための運動を起こすよう努めた。総合福祉法や障害者差別禁止法制定も視野に活動したが、グランドデザイン案、障害者自立支援法案への対応に追われ、十分とはいかなかった。

『日本障害者フォーラム(JDF)』の求める活動に積極的に協力した。「新障害者プラン」の評価とその内容の充実については十分な役割が果たせなかった。

### 4. 全国社会就労センター協議会(セルブ協)にかかわる動向

国の進める就労施策の見直しに関し、セルブ協の求めに応じて積極的に役割を果たした。制度の先行実施、ゼンコロならではの取組みの準備までは至らなかった。支援費制度に移行しなかった各施設(生保・社会事業・精神・小規模・福祉工場)の本格的な見直しも視野にこれらの基礎的、横断的改革に向けた取組みは、障害者自立支援法に収斂されることになり、積極的に対応した。

### 5. 会員法人間の相互啓発、交流の促進

(1) 3つの委員会(企画・総務、印刷事業、新規事業)を引き続き運営し、事業の充実と向上をめざした。

企画総務委員会・・・各種研修、制度・政策に関わる情報収集と対外活動およびそれらへの対応をはじめ、ゼンコロ運営の全般に関わることを検討・担当した。

印刷事業委員会・・・構造的な変化を遂げつつある印刷事業について総合的な事業展開を図る。ため、本年度より事務局職員を新たに1名専任させた。

会員法人の印刷事業月例報告により、引き続き経営内容の分析と情報交換の促進を図った。

新規事業委員会・・・民間企業との異業種コラボレーションにより、新規事業の成果を確実にした。

(2) ゼンコロ会報、人材育成・研修、調査研究を企画・実施した。

(3) ゼンコロのホームページを、障害者の就労支援を前面に打ち出した内容にリニューアルした。メーリングリスト等により会員法人間ならびに各委員会の活動に有効に機能させた。

### 6. 広報活動の促進

(1) 会報「ゼンコロ」は年3回の発行にとどまった。

- (2) ホームページを他の障害者関連団体とリンクさせて積極的に広報活動に活用した。  
 (3) 既刊図書の販売を進めた。

## 7. 会議の開催

- (1) 第44回定期総会および理事会を青森で、第45回総会および理事会を東京・立川で開催した。  
 (2) 理事会を前記以外に10月と2月の2回東京で開催した。  
 (3) 三委員会を必要に応じて開催した。

## 8. 関係諸団体との協力

- (1) セルフ協、NPO法人日本セルフセンター、きょうされんととの関係強化を引き続き図った。きょうされんととの共同研究等の事業は着手にいたらなかった。  
 (2) JDの加盟団体として、積極的に役割を果たすように努めた。  
 (3) 日本障害者リハビリテーション協会の会員、日本職業リハビリテーション学会の賛助会員、Wiの構成団体として活動に参画・協力した。  
 (4) 精神障害者関係団体等との連携をとり、必要な活動を行った。

## 9. その他

ゼンコロの運営のあり方について、企画総務委員会を中心に検討をすすめた。財政面における安定的な事業運営のあり方は、新規事業の立ち上げである程度目途を立てた。

### 社団法人ゼンコロ一般会計・貸借対照表

2005年3月31日現在

(単位:円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
現金	103,592	未払金	668,169
普通預金(東京三菱)	871,929	特別預り金	5,451,120
普通預金(芝信用金庫)	13,562,425	負債合計	6,119,289
郵便振替	1,632,909	基金の部	
未収金	3,986,178	基金	120,000
立替金	685,603	白十字基金	500,000
流動資産合計	20,842,636	15周年基金	2,500,000
什器備品	126,130	海外交流基金	311,553
固定資産合計	126,130	基金合計	3,431,553
		剰余金の部	
		繰越剰余金	11,417,924
		(当期剰余金)	-4,989,472
資産合計	20,968,766	負債・基金・剰余金合計	20,968,766

### 社団法人ゼンコロ一般会計・損益計算書

自2004(平成16)年4月1日～至2005(平成17)年3月31日

(単位:円)

費用の部		収益の部	
科目	金額	科目	金額
総会費	555,837	会費	13,087,200
会議費	98,556	特別会費	100,000
人件費	10,115,532	寄付収入	250,000
研修費	229,789	雑収入	4,030,490
消耗品費	996,505	前期繰越剰余金	16,407,396
通信運搬費	290,940		
旅費交通費	1,467,511		
印刷費	1,467,515		
交際費	152,548		
事務局使用料	856,800		
関係団体費	1,020,995		
研究資料費	902,789		
会報印刷費	1,773,229		
会報発送費	268,081		
リース料	75,600		
雑費	2,045,395		
送金手数料	41,040		
租税公課	98,500		
繰越剰余金(当期剰余金)	11,417,924		
計	33,875,086	計	33,875,086

2005(平成17)年度

## 社団法人ゼンコロ事業計画

(2005年4月1日～2006年3月31日)

### 1. はじめに

昨年10月厚生労働省から示された「今後の障害保健福祉施策について(改革のグランドデザイン案)」を受け、障害者団体を含む関係各方面での要望、議論を経ながら今年2月10日、「障害者自立支援法案」が閣議決定され、通常国会に上程された。今後5月の連休前後に審議されることとなっているが、基準や報酬等具体的な中身については政令または厚生労働省令に定めるとされており、その詳細については残された課題となっている。

また、ハローワークとの連携強化や精神障害者を法定雇用率の対象とするなどの改正を盛り込んだ「障害者雇用促進法の改正」案も同日に閣議決定されており、両法案は同時に審議される予定で国会においても雇用と福祉のトータルな議論が行われる見込みである。

わが国の障害保健福祉施策の改革の全体像が明らかになりつつある中で、特に障害者の就労について、当法人においてもその動きを引き続き注視し、ゼンコロ各施設の運営を組織的に整理・把握する必要があると考え、新たな検討機関を設置することとした。

印刷事業については、民間企業とのタイアップによる新市場開拓に関して、一定の成果を得たことを受けて引き続き共同受注に努力する予定である。環境事業を中心とした新規事業は全国ネットワーク化が大きな課題であり、全国規模の企業等の協力を得ながら更にその事業を加速させるため、事務局に新規事業担当者を引き続き配置する。

激変期にあるわが国の障害者福祉施策に関し、その活動の場としての日本障害者協議会(JD)に対して引き続き積極的に支援し、参加していくこととする。

### 2. 国際的動向への対応

ワークアビリティ・インターナショナル(WI)の年次総会が9月にイギリスで予定されているが、事業振興の側面から具体的な関係のあり方を検討する時期にあるものと思われる。

### 3. 国内的動向への対応

JDをとおして必要な活動に参加するとともに、JDが参加する「日本障害者フォーラム(JDF)」の予定する障害者プランの推進、アジア太平洋障害者の十年の推進、障害者権利条約に関する検討、障害者の差別禁止と権利法制に関する検討などにも関わっていくものとする。

### 4. 全国社会就労センター協議会(セルフ協)にかかわる動向

国の進める障害者の就労施策の見直しに関し、セルフ協とともにその動向を見極めつつ、必要な対応がとれるよう準備する。

### 5. 会員法人間の相互啓発、交流の促進

3つの委員会(企画総務、印刷事業、新規事業)を引き続き運営し、事業の充実と向上をめざすものとする。

**(1) 企画総務委員会**

委員会を5月・9月・1月に開催する。  
 障害者の制度改革に関わる「制度改革対策委員会」の事務局の役割を担うとともに、実務者研修会を秋ごろに開催する。  
 ホームページ管理  
 全面リニューアルとその後の適切な更新をとおして、障害者の就労支援に寄与するホームページづくりに努める。  
 ゼンコロ広報紙  
 昨年に引き続き3名の編集担当により、編集方針を検討する。定期発行は年度内3回とする。  
 対外関係  
 a. WI及びWIJに関する取り組みの窓口となる。  
 b. JDと連携した課題について具体的に取り組み、必要に応じて理事会等へ提起する。  
 ゼンコロのあり方  
 ゼンコロのあり方について検討を進める。現在の総会の構成員についても検討し、課題提起する。

**(2) 印刷事業委員会**

印刷事業・ゼンコロ分室体制を継続し、各法人の事業安定化の一翼を担う。品質の標準化にも引き続き取り組み、可能な限り品質基準に近づけることで各法人全部が関与できる事業としていくことに努める。そのための実務者による研修・交流会等の開催を予定する。

**重点項目**

- a. 事務局員の活動範囲や役割分担を見直し、企業からの受注を確保するとともにその他のマーケット市場にも参入し、より効果的に受注に結びつけることを目指す。
- b. 品質基準を設定し、委員会で定期的に点検することでゼンコロの印刷品質を向上できる取り組みを行う。
- c. 資材の共同購入に関し、引き続き可能性を検討する。
- d. 会員法人の印刷事業月例報告により、引き続き経営内容の分析と情報交換の促進を図るものとする。
- e. 新規事業委員会と連携可能な事業は積極的に取り組む。

**事業目標**

本年度の事業目標を次のとおりとする。  
 売上高・受注高目標 単位:(千円)

	2004年度実績	2005年度計画	対前年比
西東京PT売上高	139,328	160,000	114.8%
ゼンコロ分室受注高	81,910	118,100	144.2%
事務費収入	2,457	3,543	144.2%
事務費差額	- 543	543	-

**(3) 新規事業委員会**

古紙リサイクル事業への各法人の取り組み増加に伴い、その拡大を図るため全国展開を推進する。

そのための情報交換や支援体制の強化を図る。

**重点事業**

a. 古紙リサイクルへの取り組み(継続)

- ア. 回収取り組み法人の増 2ヶ所 8ヶ所
  - イ. 回収事業所(関連福祉団体)の増 5ヶ所 16ヶ所
  - ウ. 新規事業専任職員の採用 1名
  - エ. 出向職員の派遣期間の1年延長(沖縄コロニー)
  - オ. 流通企業との連携強化(全国支店の取り扱い増)
    - b. 空容器リサイクルへの取り組み(継続)
    - c. ゼンコロとして環境事業部(仮称)の創設検討委員会の開催・・・5月(第12回)、10月(第13回)、2月(第14回)
- きょうされんと共同事業の検討(継続)  
 各法人の廃棄物調査(7月)・・・印刷用紙、アルミ版、廃液、その他

**(4) 制度改革対策委員会(新設)**

障害者福祉施策の改革に関する方向性の把握と施設運営における課題を検討・整理し、具体的対策を提起する。

**6. 会議の開催**

- (1) 第46回定期総会および理事会を沖縄で、第47回総会および理事会を熊本で開催する。
- (2) 理事会を前記以外に2回開催する。
- (3) 三委員会及び制度改革対策委員会を必要に応じて開催する。
- (4) その他、状況に応じて必要な会議を開催する。

**7. 関係諸団体との協力**

- (1) 全国社会就労センター協議会(セルブ協)、NPO法人日本セルブセンター、きょうされんとの関係強化を引き続き図る。
- (2) JDの加盟団体として、積極的に役割を果たすように努める。
- (3) 日本障害者リハビリテーション協会の会員、日本職業リハビリテーション学会の賛助会員、WIの構成団体として活動に参画・協力する。
- (4) その他精神障害者関係団体との連携をとり、必要な活動を行う。

**8. その他**

- (1) 既刊図書の販売を促進する。
- (2) ゼンコロの財政面における安定的な事業運営のあり方を引き続き検討する。

**社団法人ゼンコロ 2005年度予算**

**収入の部**

科目	2004年予算	2005年予算
会費収入	13,087,200	13,287,600
特別会費		100,000
寄付収入	225,000	300,000
雑収入	4,050,000	11,440,000
収入合計	17,362,200	25,127,600
前期繰越剰余金	16,407,396	11,417,924
合計	33,769,596	36,545,524

## 費用の部

科目	2004年予算	2005年予算
総会費	500,000	500,000
会議費	250,000	920,000
人件費	9,600,000	15,100,000
消耗品費	100,000	850,000
通信運搬費	300,000	300,000
旅費交通費	850,000	1,260,000
印刷費	1,100,000	100,000
交際費	100,000	70,000
事務局使用料	856,800	856,800
リース料	75,600	75,600
研修費	200,000	200,000
関係団体費	860,000	1,005,000
研究資料費	500,000	580,000
会報印刷費	2,536,000	1,860,000
会報発送費	400,000	282,000
送金手数料	15,000	40,000
租税公課		86,000
雑用費	150,000	841,800
費用合計	18,393,400	24,927,200
当期損益	1,031,200	200,400
当期繰越剰余金	15,376,196	11,618,324
合計	33,769,596	36,545,524

## 「沖縄コロニー」

## (ゼンコロ第46回総会 開催地法人紹介)

法人本部事務局次長 金城忠彦

ゼンコロ総会は雨の久米島となってしまい、大変残念でありました。参加いただいた方々に初夏の沖縄を満喫していただく予定でしたが申し訳ありませんでした。さすがに天候には勝てません。その後、沖縄は梅雨明けし、夏本番です！逆に本土において豪雨による被害がでており、心配しております。

沖縄コロニーの紹介ですが、総会の時には施設見学が特老のありあけの里でしたので、身障部門の状況をお知らせいたします。建物は大規模修繕でコロニーセンター、ステーション、ワークショップとも見違えるようになっています。また日本財団の補助をうけエレベーターの新設工事もおこない利用者に大変、喜ばれています。次の機会にはぜひご見学ください。

今、新規事業で活発に動いているのがヘルパーステーションです。コロニーワークショップ沖縄ではすでに2箇所のヘルパーステーションが開設しており、特老のありあけの里を含めると4箇所のヘルパーステーションを開設。今年度中に10箇所を開設する予定です。その準備のため法人内の新規事業委員会を新たに立ち上げました。特に地域的にコロニーのエリア外への展開を目指しています。その先駆けとなっているのが「ヘルパーステーションうま」であり、そこをモデルにし、展開のマスタープランを作成しています。コロニーには長い歴史があり、利用者、職員のOBも大勢おります。施設関係者などの人脈もおおく、その情報を宝とし、当事者としてのサービス展開ができます。その点においては民間の事業所よりは優位であり、厳しくなる現状もビジネスチャンスと捉えています。障害者自立支援法の行方が心配ですし、厳しくなる一方の授産事業ですが、それでも私たちは開拓者の心でチャレンジしなければ生き残れません。ゼンコロの仲間と情報交換を続けながら頑張っていきたいと思っております。

## 社団法人ゼンコロ 役員名簿

任期 2005年6月～2007年6月

氏名	当初就任年月日	役職名	所属法人/役職
勝又 和夫	1997年7月11日	理事(会長)	東京コロニー 理事長
金城 康博	2001年6月14日	理事(常務理事)	沖縄コロニー 常務理事
武者 明彦	2001年6月14日	理事	東京コロニー 常務理事
横内 正秋	2005年6月14日	理事	青森県コロニー協会 常務理事
須貝 寿一	2004年6月14日	理事	山形県コロニー協会 理事・工場長
水上 能男	2001年6月14日	理事	長野若槻園 理事・事務局長
湯沢 弘	2003年6月14日	理事	あかつきコロニー 常務理事
杉山 正胡	2005年6月14日	理事	山口県コロニー協会 常務理事
小峠 繁	2001年6月14日	理事	福岡コロニー 常務理事
大石 安弘	2002年6月12日	理事	佐賀春光園 常務理事
高森 精輔	2005年6月14日	理事	熊本県コロニー協会 理事・施設長
平田 秩子	2003年6月14日	監事	京都梅花園 理事長
登山 彩文	2003年11月20日	監事	東京アフターケア協会 施設長
神野 敏夫	2004年8月9日	事務局長	東京コロニー 事務局長

社団法人ゼンコロ 三委員会委員一覧  
(2005年度)

法人名	企画総務委員会			新規事業委員会			印刷事業委員会		
	氏名	役職	役割	氏名	役職	役割	氏名	役職	役割
青森県コロニー協会	杉田 清道	事務局長		山口 保	作業開拓本部 副本部長	新	山口 保	作業開拓本部 副本部長	副委員長
山形県コロニー協会	渡辺 博樹	プリプレス課 課長		荒井 藤雄	指導員		佐藤 義晴	生産部長	
長野若槻園	石坂あき子	生活支援係長	新	夏目 角成	企画営業員	新	津金 正一	工場長	
東京コロニー	加藤留美子	福祉事業本部長	副委員長	辰野 恵子	作業支援係長		中村 敏彦	コロニー-東村山印刷所 所長	委員長
あかつきコロニー	高橋 毅	あかつき授産所 所長	委員長	今西 康二	トコ青葉ワークセンター所長	副委員長	永井 眞	あかつき作業所 所長	副委員長
東京アフターケア協会	登山 彩文	清瀬作業所 所長		菊地 信幸	スペースまどか 所長		登山 彩文	清瀬作業所 所長	
京都梅花園	山本 信二	印刷営業		山崎 昭浩	汽車の家作業所 所長		石井 久之	事業部課長	副委員長
山口県コロニー協会	杉山 正胡	常務理事		大西 正博	事業部課長		大西 正博	事業部課長	
福岡コロニー	花田 敏秀	なのみり 課長	新	平田 達弥	施設長		三上 彰三	印刷課長	
佐賀春光園	木塚 大成	指導員		加藤 元久	支援部次長		重田富美夫	営業課長	
熊本県コロニー協会	大島 武文	総務課長		清水 邦之	商事課長		田中 司	印刷所長	
沖縄コロニー	佐久川清美	沖縄コロニー-ステーション 所長	副委員長	中村 武	指導員		大川 一成	指導員	
ゼンコロ	渡辺 忠幸	事務局		高森 精輔	理事・施設長	新	川越 康勝	製造課長	
				金城 忠彦	営業部長	委員長	比嘉 栄治	製造部長	
				比嘉 哲	事務局		橋本 謙二	事務局	

## 社団法人ゼンコロ 第46回定期総会・決議文 - 「障害者自立支援法案」に対する意見 -

私たちゼンコロは、障害者の自立と所得保障を求めて「働く場」の確保と確立に一貫して取り組んできた。

本年6月16、17日沖縄で開催した第46回定期総会において、この2月に国会に上程された「障害者自立支援法案」について、昨年11月の第45回総会での「今後の障害福祉施策について - 改革のグランドデザイン案」決議を前提に、協議した。

この法案では、身体・知的・精神という三つの障害を総合し、自立支援と地域生活支援を促進する形に組み替え、障害者の自己実現・社会貢献を図る方向性が示されている。私たちは、改めて障害者福祉のあり様として「障害者を締め出す社会は弱くて脆い社会である」(1981年「国連障害者年」での国連決議の一節)を確認し、この上で法案上の問題点として福祉サービスを必要とするすべての人に対し、現行制度の矛盾により「谷間の障害者」を生んでいることが解決されることを望み、併せて所得保障なき応益(定率)負担には賛成しかねることを確認した。今回の法案の目指す方向が現行障害三法の枠外に置かれた人たちを含むすべての障害者にとって、決して社会から締め出すものでないことを強く望むものである。

このことを前提に、自立や所得保障にとって最も重要な問題である「働く権利」を保障する仕組みについて、この法案のままでは抜本的な解決策が提示されているとは言いがたく、そのことを深く憂慮して、わが国で唯一の保護(社会的)雇用の場である福祉工場を多く抱える私たちの立場から、ここに以下の事項について再度改善すべき事項として決議する。

記

1. 福祉的配慮を要する障害者の雇用の場である就労継続支援事業について、保護(社会的)雇用の場であることを明確に位置づけ、公的責任による育成の視点から、現行福祉工場制度を充実させる方向性を示すこと
2. 生活介護事業や就労継続支援事業、就労移行支援事業などに企業が仕事を発注した場合、法定雇用率への換算や税制上の優遇など、企業にとってインセンティブとなる仕組みを制度化すること
3. 就労移行支援事業、就労継続支援事業などにおける施設利用にかかわる利用者負担を求めないこと

2005年6月17日

社団法人 ゼンコロ

東京都中野区江原町2-6-7

## ゼンコロ各委員会紹介 企画総務委員会

現在、ゼンコロには3つの委員会(企画総務、印刷事業、新規事業)があり、各法人より委員を選出し、目的(目標)達成のための活動を行っています。

その中で、企画・総務委員会は名称のとおり、ゼンコロの総務的な役割を担う一方、今後のゼンコロのあり方等、ゼンコロ・各法人が抱えている問題等を検討し具体的な提案ができるよう、高橋委員長(あかつきコロニー所長)を中心に活動しています。

これまで研修会の開催(給食関係職員研修、支援員研修)ゼンコロ要覧の改訂、ホームページのリニューアル等を実施しました。また、委員会の中では「ゼンコロ」について、その役割等がゼンコロ各法人の皆さんに浸透していないのではないかと意見もあり、その解決策の一つとして「会報ゼンコロ」の充実を図り、発行していきたいと考えています。

現在国会にて審議されている「障害者自立支援法」への対策としては、今年2月に開催された拡大理事会において、障害者福祉施策の改革に関する方向性の把握と、施設運営における課題を検討・整理し具体的な対策を提起することを目的とし「制度改革対策委員会」の設置が確

認されました。当委員会は「制度改革対策委員会」の事務局的な役割を担うこととなり、これまで4月、6月に委員会を開催しました。このいくつかの問題点のある「障害者自立支援法」については、その詳細が判らない部分がありますが、当委員会の担当役員である勝又会長より、現況についての詳しい説明を受け、それぞれの法人に持ちかえり、移行先のシミュレーションや利用者自己負担金の問題等について検討しています。(この会報が発行される時期には、障害者自立支援法について、具体的な動きがあるかもしれませんが)ゼンコロ各法人及びそこで働く皆さんへ大きな影響が出てくるこの法案について、それにどう対策を行うのか、今後も約1か月に1回、委員会を開催していきますが、私も会議に出席するにあたり、その責任の重さを痛感しています。

このように、企画・総務委員会では、ゼンコロ、各法人共通の課題や福祉をとりまく環境の変化等、色々な側面から検討を行っています。課題は多いですが、それをゼンコロの皆さんと話合う中で、逆に今後のゼンコロのあり方についても、その方向性が見出せるのではないかと感じています。

この誌面で企画・総務委員会の活動状況について、上手く伝えきれない部分もありますので、各法人の委員へお尋ね頂ければと思います。

企画総務委員(熊本県コロニー協会) 大島武文



## 情報コーナーその2

企画総務委員 木塚大成

今回ご紹介するのは、「財団法人交通エコロジー・モビリティ財団」が運営している

「らくらくおでかけネット」

<http://www.ecomo-rakuraku.jp/rakuraku/index/>

です。

このHPでは、全国の駅・ターミナル情報や乗り継ぎ情報等を検索することが出来ます。

まず最初にこのHPのメインである「全国の駅・ターミナル情報」についてレポートしていきます。メインページ左上の「駅・ターミナル情報」をクリックすると「駅・ターミナル名検索」項目が出てきます。基本的には、そこに「駅名」または「路線名」または「事業者名」を入力して「GO」ボタンを押すだけです。

情報項目としては

トイレ情報

車いすトイレの有無など

車いすでの移動情報

入り口から改札や改札から各ホーム、ホーム間の状況など

インターネット情報

駅情報・駅案内図があるかどうかなど

ホームページリンク

駅の管理会社へのHPへのリンク

駅のタイプ

駅の詳細がきれいなイラストで紹介されています

車いすでの利用情報

簡単な利用情報がテキストで紹介されています。

駅の情報がカラフルなイラストと、駅の施設状況を絵で表したピクトグラムで表示されています。ただこの駅のイラストは、すべての駅に掲載されているわけではなく、主要な駅のみだけです。

車いす利用者にとって便利なのは、上記項目のうち、

トイレ情報

車いすでの移動

駅のタイプ

車いすでの利用情報

の4つではないでしょうか。特に「トイレ情報」と、「車いすでの移動」は初めての駅に行く時に非常に参考になる情報だと思います。

さらに「車いすでの移動」では大きく3つの情報

地上出入口から改札口まで

改札口から各ホームまで

ホーム間

について、車いすでの移動が可能か、可能ならどんな設備があるかを表示してあります。

この基本情報でも役に立つのですが、実は「全国の駅・ターミナル情報」よりはるかに便利な情報がこのHPにはあるんです。この情報があるおかげで、他の車いすで利用できる駅情報を載せたHPをはるかに凌駕していると思います。それが、トップページの左上にある「乗り継ぎ情報」検索システムでなんです。

この「乗り継ぎ情報」がヤフーの路線情報に比べて優れている

ところは、ヤフーの路線情報で出てくる乗り継ぎ情報+車いす利用可能情報まで同時に!!検索できる点なのです。しかも、さらにすごいのが、検索結果を車いすで利用しやすい順に並び替えてくれるんです!!

では実際の使い方ですが、トップページ横の「乗り継ぎ情報」というボタンをクリックすると、乗り継ぎ情報という検索窓が出てきます。そこに出発地と目的地を入力するだけです。車いすで利用する場合、時間は多少かかってでも乗り換え回数が少ない方が結果的に楽という場合が多いんですが、その乗り換え回数が少ない方の検索ができるんです。

さらに、このHPのすごいところは、駅に着いてからの次の交通手段のことまで考えている点です。

普通の福祉関係の駅情報では駅のバリアフリー情報は載っていても駅を出てからの交通手段まで網羅しているところは殆どないんです。でも「らくらくおでかけネット」の「福祉輸送サービス情報」では、降りた駅に福祉輸送サービスの会社があるかどうかの検索もできるようになっています。

トップページの「福祉輸送サービス情報」をクリックすると、別ウインドウで、「財団法人 全国福祉輸送サービス協会」のHPが出てくるようになっています。そのHPの左側に「福祉輸送の事業者を探す」という欄があるのでクリックします。すると、全国地図が出てくるので、降りた駅の県を押します。住所や車種からも検索できるようになっています。

この情報があれば、住所と電話番号、保有車両の型などが情報として載っているので、前もって電話をしておけば駅に着いてから慌ててタクシーを探すということが減るのではないのでしょうか。

らくらくおでかけネットは、実はパソコンだけではなく携帯からも検索が可能です。実際の駅の利用を考えるとパソコンで大まかな移動計画を練り、実際駅に着いてからや、アクシデントなどがあつたときには携帯で確認するというような使い方になるのではないかと思います。もちろん携帯のみでも十分に実用可能な検索ができます。

携帯版では、「駅・ターミナル情報」「乗り継ぎ情報」「運行情報」などが利用できます。ここでも便利なのが、「乗り継ぎ情報」です。パソコンと同じように、出発駅と到着駅を入力して決定ボタンを押すだけです。すると、経路が検索されます。

このHPの優秀な点として

- ・全国の各駅・ターミナルなどのバリアフリー情報がこのHPのみで検索できる。これは、たとえば九州から北海道へ旅をする場合、以前は複数のHP(九州と北海道のバリアフリー情報が載っているHPを探すなど)をまたがって検索しなければならなかった点からみると大変便利である。

- ・乗り継ぎ検索が、車いすで利用しやすい順番で検索できる。

- ・全国の「福祉輸送サービス情報」が検索できる

- ・主要なサービスが携帯からも利用できる。

などを挙げる事ができると思います。是非皆さん使ってみてください。とっても便利です。



名刺ハガキプリンタのスタンダード  
**MP-1200R**



**新発売**  
マルチカードプリンタ  
**MP-5000**

- ・多様な用紙に対応  
名刺ハガキ/往復ハガキ/三つ折/封筒など
- ・バリアブル印刷に対応  
宛名印字/席札/入場券/チケットなど
- ・印圧/濃度/速度の調整による最適な印字
- ・名刺100枚2分40秒、ハガキ100枚4分
- ・安定した給紙と高い印字位置精度



名刺ハガキプリンタの高品位版  
印刷会社様も太鼓版の一台!  
**MP-2000ProV**



本社: 〒104-0061 東京都中央区銀座8-20-36 第二営業本部 03-3546-7717  
<http://www.musashinet.co.jp>



(製造元)

東京支店 03-3546-7716	東関東支店 043-202-7561	大阪支店 066-745-1634	福岡支店 092-282-6301
神静支店 045-461-3400	札幌支店 011-551-6911	名古屋支店 052-581-7307	中四国支店 082-232-9261
北関東支店 048-640-5795	仙台支店 022-227-9185		



I&I-Imaging & Information

**新世代CTP湿し水**  
**ECOLITY-1**

- CTP版上のシャープな網点を、印刷物上でも高品質に再現
- 抜群の安定性で「印刷標準化のための基準づくり」に貢献
- PS版にも効果を発揮し、オフ輪にも枚葉にも使える万能タイプ

富士フイルム グラフィックシステムズ株式会社 本社 〒101-8452 東京都神田錦町3-13竹橋安田ビル2F TEL 03(5259)2314 [ホームページ http://www.ffgs.co.jp](http://www.ffgs.co.jp)



*i-Communication*

美しさをまもりめく、  
CTP思いの湿し水。

福祉施設の企画・総合計画・改造計画・設計監理



**確かな経験と豊富な実績**  
昭和44年の創業以来、北海道から沖縄まで全国各地に600件の公立・民間の福祉・医療施設建設を手がけた、数多くの経験と実績があります。施設の移転計画、増改築計画等、どんなことでもお気軽にご相談ください。計画・申請から設計/監理にいたるまで一貫したお手伝いをさせていただきます。

**株式会社 新環境設計**  
代表取締役 平松良洋  
〒113-0033 東京都文京区本郷4-10-7 本郷MKビル  
TEL. 03-5800-0321 FAX. 03-5800-0505  
<http://www.shinkankyo.co.jp>

*Let's try!* **COCO SYSTEM**

環境ビジネス

融合

福祉活動

障害者自立支援と環境保護を我々と共に取り組みましょう!

福祉社会への参加を通じ、循環型社会への貢献を  
開拓者の心で可能性を追求しよう!

**全面的にサポートします!**  
㈱総合整備 ㈱大野商事  
㈱ドムス環境総研